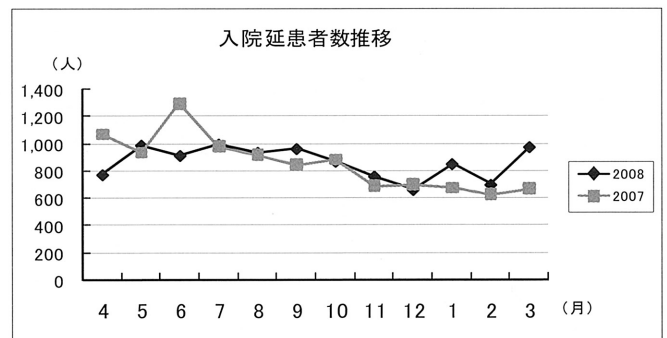
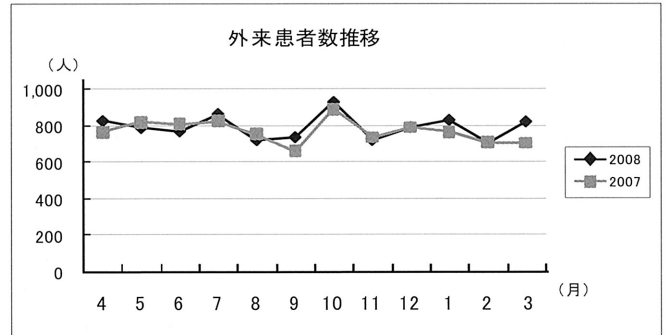


2008年度は、庄野と楠元医師の二人体制で、循環器および脳血管疾患、呼吸器疾患などの内科一般の患者の対応を行った。患者数は年間で577名であった。うち循環器疾患が151例であった。

主な疾患の内訳は、心不全76例、不整脈28例、急性心筋梗塞8例、狭心症13例、肺塞栓症・肺高血圧8例、血管疾患10例であった。

主な循環器疾患の内訳

急性心筋梗塞	8
狭心症	13
急性大動脈解離	3
その他の血管疾患	7
心不全	76
不整脈	28
肺高血圧症	8
その他	8



循環器医師の24時間救急体制がとれず、急性心筋梗塞や狭心症は直接、済生会熊本病院に搬送され、これらの疾患は減少しているが、高齢者が多く、心不全などは増加傾向である。

循環器系の主な検査は下記表に示す。当院ではカテーテル検査がないため、虚血性心疾患の精査やフォローにATP負荷エコーを多く用いている。

循環器検査件数

心エコー	1,867
負荷エコー	115
トレッドミル	93
ホルター	154
頸部血管エコー	308
下肢血管エコー	331
ABI	429
心臓CT	26
血管CT,MRI	157

2007年度に開始した禁煙外来も定着してきており、症例数も増加している。